



週)報

2013~2014年度))) R I会長)ロン)D・バートン)
『ロータリーを实践して)みんなに豊かな人生を』
))))))))))第 2570 地区ガバナー)中)井)眞)一)郎)

国際ロータリー
第 2570 地区

狭山中央ロータリークラブ

〔例会場〕狭山東武サロン〒350-1305) 狭山市入間川 3-6-14)TEL)04-2954-2511
〔事務所〕〒350-1305)狭山市入間川 1 -24-48)TEL)04-2952-2277)FAX)04-2952-2366
<http://www1.s-cat.ne.jp/schuohrc/E> - mail:schuohrc@p1.s-cat.ne.jp
会長)栗原憲司) 会長エレクト)稲見)淳))副会長)高田虎光) 幹事)宮野ふさ子

【第 3 グループ内の例会日】 狭山(金)、新狭山(月)、入間(木)、入間南(火)、飯能(水)、日高(火)、狭山中央(火)
所沢(火)、新所沢(月)、所沢西(水)、所沢東(木)、所沢中央(月)

第 987 回(3 月 25 日)例会の記録

- 点 鐘 栗原憲司会長
- 合 唱 手に手つないで
- 第 2 副 S A A 小島君、小室君
- 卓話講師 航空自衛隊入間基地
中部航空方面隊副指令
空将補 鶴 田 眞 一 様
- ビジター 東喜代雄様 (新狭山 R C)
ジョン・ポーブ君
(青少年交換学生、オーストラリアより)

「世界の工場」となるのにふさわしい条件が揃っている。とりわけ日系企業にとり最大の利点は、メコン地域でライバル企業が少ない。例えばタイで自動車生産が始まったのはトヨタ自動車トラック工場を操業した 64 年のことだ。それ以来 12 の外資メーカーがタイで自動車を生産してきたが、半世紀が経つ今でもタイ資本のメーカーは 1 社もない。

一方中国では、外資系自動車メーカーは中国と合併でなければ進出が認められない。いくら利益をあげてもその半分は中国側に吸い上げられる。どれだけ人材を育てても、優秀な人から合併相手に引っ張られてしまう。結果として中国独自のブランドは 100 を超え、上位メーカーは海外に輸出するまで実力を高めてきた。

日系企業にとってどちらの市場にチャンスがあるかは火を見るより明らかだ。メコン地域の魅力に気が付いた台湾や韓国の企業が既に進出を加速させているが、欧米企業は一部を除きこれから。先行メリットを生かせば、日本はこの成長市場で多くの果実を手にすることができる。

日系企業には他国にはないアドバンテージもある。ASEAN 諸国に対する日本の ODA (政府開発援助) は累積で 10 兆円を超えている。域内 10 ヶ国すべてで第一位のドナー国となっており、他の先進国を圧倒している。メコン川を渡す橋、道路、空港、港など巨大インフラプロジェクトを提供してきた。日本は過去、多大な貢献をしてきた。戦時中日本に占領されていた国も多いが、日本の貢献を素直に評価し、どこの国も親日感情が極めて高い。

尖閣問題がいつ爆発するかわからない以上、生産拠点を中国に集中したままではリスクが大きすぎる。メコン地域で生産基盤を強化することは、日本の製造業にとってアジア戦略を安定させる有力な方策となる。

出席報告

会員数	出席者数	出席率	前回修正
35 名	27 名	75.76%	81.82%

パスト会長の時間

古谷 博パスト会長

沖縄県尖閣諸島を巡る問題が先鋭化したことで、日本の産業界は中国事業の難しさを再認識した。その反動で東南アジア諸国連合 (ASEAN) の国々に対する関心が高まり、「チャイナプラスワン」という言葉が新聞紙上を連日賑わすことになった。



実は日本企業による中国への投資が本格化したのは、2001 年に中国が世界貿易機関 (WTO) に加盟してから。1990 年代まで日本から ASEAN 諸国への投資は、中国向けを常に上回っていた。85 年のプラザ合意で円高が急激に進んだため、日本の製造業がこぞってタイなどに進出したからだ。その意味で、日本企業のアジア戦略は原点に回帰したとも言える。

ASEAN の中でも製造拠点としてのポテンシャルが高いメコン地域に注目した。人件費は 10 年前の中国より安く、若い労働力が豊富に確保できる。巨大市場に近いことも強みだ。ASEAN 域内だけでも 6 億人の人口を抱える。中国とインドの中間に位置するため、輸出拠点としても魅力が高い。

幹事報告

宮野幹事

(定例理事会)次の件が審議・承認されました。

- (1) 4・5月プログラム承認
- (2) 入会希望者・有山幸雄様について
- (3) 高岸会員の休会届について
- (4) モンゴル植樹旅行費用について
 1. 次年度第3G第1回会長・幹事会について
 2. 日高RCチャリティーゴルフ大会について
 3. 航空自衛隊入間基地、観桜会開催について
 4. 米山梅吉記念館、春季例祭開催と賛助会入会について
5. 受贈会報 所沢西RC 所沢東RC
所沢中央RC
6. 回覧物 米山梅吉館館報

東喜代雄地区青少年交換委員会委員より

大切な例会の時間をお借りしまして、一つご紹介をさせて頂きたいと思えます。

国際ロータリー青少年交換というものは、「外国で勉強したい」という高校生が手を挙げますと、その地区の人が相手の国から学生を招き、一年間お互いに交換し合おうというシステムです。

狭山市上奥富の豊岡高校の御嬢さんが行きたいと手を挙げましたが、交換学生のホームステイ先の引き受け手がなかなかなく、とにかく狭山で引き受けようと決めました所、まだ新狭山も決まらないうちに、貴クラブの幹事の宮野さんが少しならばやっても良いと言って下さり、本当に有り難く思っております。お陰様でちょうど今日来てから1ヵ月となりますが、1年間ホームステイが安心してできます。

豊岡高校に約10日行きましたが、学校では非常に人気で友達もたくさんでき、中には積極的な女の子もおりましたので、男の子たちが彼を守っております。まだ日本にきて1ヶ月なので、日本語はあまりできませんが、是非日本語でアプローチさせて頂きたいと思えます。これからも連れてきますので、日本語の勤勉と、ご厚意を宜しくお願い致します。

オーストラリア交換学生 ジョン君

私の名前はジョンです。私は17歳です。宜しくお願い致します。



「外来卓話」・・・・・・・・

航空自衛隊入間基地
中部航空方面隊副指令
空将補 鶴田 眞 一 様、



本日は会員の吉松様からご紹介頂きまして、この場で卓話することとなりました。本当にありがとうございます。吉松様は入間基地の退職者雇用協議会に入って頂いておりまして、定年する隊員たちのための再就職先を色々ご紹介頂いております。この会は、約340社の皆様から再就職に関しまして色々ご援助して頂いております。本ロータリークラブからも数社が所属されているようで、日頃からお世話になっていることに感謝申し上げます。

まず、自己紹介をさせて頂きます。私は、昭和36年生まれの52歳、防衛大学校出身です。生まれは北海道、静岡県育ちです。現在、航空自衛隊に約30年勤務していますが、これまでにだいたい2年に1回は転勤をしてきています。私の職種は、パイロットではなく航空機整備です。家族は東京におりまして、家族構成は、妻と大学生2人、高校生1人の男の子3人です。

さて、本日は、「新たな防衛計画の大綱・中期防衛力整備計画・総合機動防衛力の構築に向けて」という題でお話をさせて頂きます。昨年末、我が国にNSC(国家安全保障局)ができ、その下に国家安全保障戦略ができましたが、これを受けて作られた大綱・中期防の中身について、皆様にご紹介させて頂きたいと思えます。

その前にまず、航空防衛力とは何かという基礎的なお話をさせて頂きます。航空防衛力につきましては、航空防衛力の意義、特長、近年の航空戦力運用の特長という3点を説明します。

航空防衛力の意義ですが、空の防人と記載しました。警察力・防衛力を陸・海・空で区分すると、地上では警察がありますし、防衛力としては陸上自衛隊があります。海上では、海上保安庁が警察力の役割をしており、海上自衛隊が防衛力を担っています。では空は航空警察があるかといいますと、ありません。航空では警察、防衛力両方の役割を担っているのが航空自衛隊です。具体的に警察力とは何をしているのかといいますと、皆さんスクランブル発進という言葉聞いたことはあるでしょうか？諸外国、例えばロシア機や中国機が

我が国の領空に接近してくる際に、領空を侵犯されることがないように、全国の戦闘航空団から戦闘機を発進させ、航空機に通告、もしくは監視をするということを日常的に行っています。現在では中国とロシアの活動が非常に活発になっており、対領空侵犯措置、いわゆるスクランブル発進が非常に増えている状況です。このように航空自衛隊は、警察力と防衛力という2つの役割を担っています。

次に航空戦力の長所ですが、これは高い即応性、機動性、柔軟性、多目的性を有しているということです。事態に即座に対応する即応性、長距離を短時間で移動する機動性、状況の急変に対応する強い柔軟性もありますし、例えば輸送機であってもヘリコプターであっても輸送をしたり救難をしたりすることがあります。そして戦闘機も震度5強以上の地震があった場合には、スクランブル発進し偵察を行います。スクランブル発進の航空機は24時間待機していますが、これは領空侵犯機に対して対応するだけでなく、災害派遣に対しても対応しています。

短所もあります。例えば、天候・気象の影響を受け、滑走路に雪が積もっている場合や視程が非常に悪い場合は、なかなか離発着できないということがあります。また、地上に戦闘機がある時というのは脆弱で、地上にある時には何も戦力を発揮できません。そのため、基地の警備や航空機を地上で防護するということが如何に大切かということがおわかり頂けると思います。また、防衛力整備に長期間を有します。我が国の主力戦闘機F15の例を見ますと、海外で資料収集等をし、機種選定し、航空機を作り始め、1つの戦闘機部隊として任務に就けるまで、約10年かかります。そして、パイロットもそうです。パイロットの主力は航空学生ですが、高校を卒業し、1人前のパイロットといわれる4機編隊長、4機の戦闘機をコントロールできるリーダーを作るために、約10年かかります。飛行機に約10年、人にも約10年かかるということです。長期的なレンジで物事を見て行かなければ、何か事があった時に今から用意しても間に合わないということになります。

航空戦力を発揮するためには、各種機能が必要となります。戦闘機があれば全て任務を行える訳ではなく、整備をする人、整備するための物を補給する人、航空機を管制する人等、色々な役割を負った人たちが沢山います。よく我々の戦力は、掛け算の戦力であると言われます。それは1つの機能が0の場合、 $X \times 0 = 0$ になってしまうということで、一つ一つの機能がプロフェッショナルであり、チームワークを大切にしなければ、戦力が発揮できないのです。

また、航空防衛力の特徴として、「質的優劣が作戦の帰趨を決定する。」ということがあります。今のF15と昔の零戦を戦わせた場合、当然F15が勝つと思われれます。今我々の持っている主力戦闘機

F15は第4世代の戦闘機とされています。現在第5世代の戦闘機が出てきており、これを代表するのがF22という米国の戦闘機です。そしてF35という戦闘機もそうですが、これらは既に実用化、もしくは実用化されつつある戦闘機です。第4と第5では何が違うのかと言いますと、一つは「ステルス性」を持っているということ、要するにレーダーに映りにくいということです。機体の形状や使われている素材等の関係でレーダーの電波を吸収、もしくは四方八方に散らし、レーダーに映りにくくするというのが、第5世代の戦闘機です。もう一つは、「先進統合アビオニクス」と言われているものです。様々なセンサーを航空機自身が持っていて、それらを集約的にコックピットに表示し、パイロットの作戦を支援できるという、非常に先進的な技術を使っているところが決定的に違う部分です。

質が高い戦闘機が勝つのは、現代でも同じです。米軍が2006年にF15とF22を108回戦わせた結果、一度もF15は勝てませんでした。それだけ能力の差があるということです。今中国とロシアは一生懸命第5世代の戦闘機を開発しています。諸外国はこうしたことを追及しているということで、日本も遅ればせながら色々と研究をしていますが、まだまだ予算が少なく、遅れをとっているという現状です。

次に、航空戦力運用の特長ということですが、一つ目は、情報を収集し、判断し、行動するというサイクルが近年大変速くなってきていることです。このサイクルが昔の戦争は年単位や月単位でしたが、今では1時間以内です。実際にイラン戦争の時にフセイン大統領が色々逃げ回り、バグダッドの某所にいるという情報を得てから、今使える最適なアセットを判断し、そこにミサイルを撃つまで約40分だったと言われています。今やそうしたサイクルで活動をし、これらができるセンサーやアセット等が整備されていないと、我々は先にやられてしまいます。

二つ目は、3つのドメインの優勢を確保することが非常に大切だということです。今までは、航空作戦は空のエリアで航空優勢を確保すれば良いということでしたが、今や航空作戦をするためには、宇宙の領域でも我々が優勢をとっておく必要があります。偵察衛星、通信衛星、早期警戒衛星等さまざまな衛星がありますが、こうした衛星を有効に活用できるということが、作戦の成否に関わってきます。

もう一つは、サイバースペースです。こちらも同じで我々作戦運用をするときにインターネットを使いますが、このネットワーク網をきちんと機能するように使えるかどうかということも大きなポイントになってきます。

既にサイバー戦争は始まっています。実際にサイバー戦が使われたのは1990年の湾岸戦争です。当時イラクがクウェートに侵攻をしました。多国

籍軍がイラクを攻撃しようとした時、イラクは世界で4番目に入る位に地上軍に力があるため、地上軍の戦いだと分が悪いと、多国籍軍は空からの戦いの戦法をとりました。そこで彼らが行ったことは、イラクの防空網を壊滅させることです。そしてこの防空網を壊滅させるため、彼らの防空システムの中にウィルスを入れました。その方法とはプリンターにウィルスを入込み、彼らが防空指令所に接続すればウィルスが広がり、そこで防空網が壊滅、もしくは打撃を与えるという作戦です。防空指令所は完全に撃破されていましたので、その効果がどれくらいだったのかということは推測でしかわかりませんが、いずれにせよそのような作戦が使われました。

今アメリカや日本の企業等に中国からサイバー攻撃が行われています。アメリカのロッキード・マーチン社、もしくは国防総省に対して重要な情報を盗むためのウィルスが多く撒かれました。2~3年前には日本でも、三菱重工に対してのウィルス攻撃が実際に行われています。決して中国政府は自分たちがやったとは言いませんが、米国は名指しで非難しています。このようなことは日常茶飯事です。皆さんの企業でもお使いになっているかもしれませんが、中国製のBaidu IMEも問題になっており、企業で打ちこんだ情報等によって、誰がどのようなことを考えているのかということが、自動的に中国に送られてしまうのです。専門家は故意的なものだと、これを使わないように各自治体に色々と指導をしています。皆さんもBaidu IMEをお使いの場合は、すぐに削除することをお勧め致します。

次に、本題に入りたいと思います。

今まで国家安全保障戦略というものは日本にはなく、その中で防衛大綱及び中期防が作られていましたが、昨年末に作成されました。諸外国にはもちろんありましたので、日本でもようやく諸外国並みのドキュメントに基づいた防衛計画ができるようになったということです。

国家安全保障戦略には、国家安全保障の基本方針が書かれています。そして国益、理念についても書かれています。安倍首相が、「積極的平和主義」という言葉を使っていますが、これは国家安全保障戦略の中に書かれており、安全保障上の考え方の下に発言をされているということです。防衛計画大綱はこれらを踏まえまして、防衛力の在り方や保有すべき防衛力の水準が書かれています。10年程度の期間を想定して作られているものです。

中期防衛力整備計画は中期防とよく言われますが、これは大綱を受け、5年間の計画として何を整備していくのか等を決めているものです。年度予算はこの5年間の計画に基づいて作られます。

国家安全保障戦略の作成の主旨は、国家安全保障に関する基本的な方針を示すものです。この方針を受け、防衛だけでなく、海洋、宇宙、サイバー、ODA、エネルギーといったものにも指針を与

えています。国家安全保障の戦略的アプローチという観点では、我が国の能力、役割の強化・拡大日米同盟の強化等々が書かれており、その他にも諸外国とどのように付き合っていくのかということも書かれています。ご興味がある方は見て頂くと、国の考え方、軸が良く分かります。

防衛計画の大綱は国家戦略を受けて作られているわけですが、安全保障環境をどう見ているかといいますと、今非常にグレーなゾーン、戦闘でも平和でもないといった状況にあると見ています。先般では中国が東シナ海に、防空識別区というものを作りました。我々は防空識別圏というものを設定し、航空機がそのエリアに入ってくれば、これを識別し、必要な措置をとるという考え方ですが、彼らはそれに加えて、そのエリアをあたかも自分の国の領空であるかのように振る舞い、そこに入ってくる航空機に対して中国人民解放軍に通報するよう表明しています。我々諸外国が作っている防空識別圏とは違うものを勝手に設定しているという状況にあるなど、これは一例ですが、グレーな事態が非常に増えてきています。このように、我が国を取り巻く安全保障環境は、一層厳しさを増しており、地域・国際社会の安定のためには、諸外国との連携が大切になってきます。このため、我が国自身の努力を大切に、日米同盟の強化、安全保障協力の積極的な推進、この地域をより安定的なものにするために協力関係を進めて行こうという3つのアプローチをしています。

「統合機動防衛力」とは、防衛計画の大綱の1つのキーワードとして、この言葉を知っているだけで皆さん通だと思われまので、是非覚えておいてください。これは、様々な事態に、シームレスかつ状況に臨機に対応し、機動的に行えるよう統合運用の考え方をより徹底した防衛力のことで、例えば尖閣問題であれば、沖縄県からかなり離れた場所で作戦運用をしなければならぬと思えますし、そのための戦力の運用等も大きな課題になってくることが背景にあるかと思いますが、陸・海・空の戦力を結び付け、効果的に戦力を発揮するためにやっぴいこうというものが、統合機動防衛力です。

防衛力の役割は大きく2つあり、各種事態における実効的な抑止と対処を行えるようにすること、アジア太平洋地域の安定化、グローバルな安全保障環境の改善を進めて行こうというものです。このためには海上優勢、航空優勢を確実に維持できるような防衛力作りをしていこうということが、大きな流れです。昔は、陸・海・空の予算は、それぞれ1/3で、陸上自衛隊も戦車を多く保有していなければといった流れもありました。しかしやはり日本は島国ですので、攻めてくるのは空か海ということで、こうしたところをしっかりとブロックし、機動的に運用して行くためには、空と海の戦力を増強、海上自衛隊であれば潜水艦の増強、航空自衛隊であれば戦闘機等を増やしていくとい

うことが課題になっています。

防衛省・自衛隊は、グローバルな安全保障環境の構築の役割の一つとして防衛交流を行っています。私は平成5年にハワイに行きましたが、アメリカ軍がアジア太平洋地域の30数ヶ国、約100名位の安全保障関係者を集めて、3ヶ月間様々な安全保障関係の教育や意見交換を行う場がありました。こうしたことに参加しながら、諸外国の人と交流を深めていくことも、我々の一つの役割だと思っています。このハワイで学生達と真珠湾に行くことがありましたが、その時マレーシアの軍人が、「お前たちがやってくれたから俺らは独立できた。だから日本人と一度パールハーバーに来たかった。」と言って私の所に来てくれ、ほとんどASEANのメンバーが集まり、一緒に写真撮影をしました。彼らは日本に対して非常に恩義を感じており、高い敬意を表し、感謝しています。タイでは「メナムの残照」というドラマや映画がありますが、これは旧日本陸軍の大尉とタイの女性とのロマンで、これが放映されると、タイの人はいまだに感動して涙を流しています。それだけ日本に対しての気持ちが強いのということを、改めて感じることができました。

最後に、中期防における空自の防衛力整備について説明します。

日本には28カ所のレーダーサイトがありますが、この位置づけを少し変えて、28個警戒隊に改編をするということ、また警戒航空部隊（空から航空機等の監視をする部隊）を2から3つにすることを検討しています。場所は三沢、浜松、那覇で、空から監視できる体制づくりをしています。

戦闘機の部隊は千歳、三沢、百里、小松、築城、新田原、那覇の7つの基地に配備しています。現在那覇には1個飛行隊しかありませんが、中国が東シナ海に多く出てきていますので、飛行隊を2つにしようということ、そのための展開を考えています。また、偵察航空隊という部隊がありますが、これを廃止し、戦闘機部隊を1つ増やし、12から13個飛行隊にしようとしています。偵察機能をどうするかといいますと、戦闘機部隊に偵察機能を持たせる、もしくはグローバルホークのような戦略的な偵察機を保有し、補完をするという考え方があります。

BMD体制（弾道ミサイル防衛）は、航空自衛隊の総隊司令官が一元的に指揮をして、海上自衛隊のイージス艦等を使いながら防御しますが、この中でPAC-3をより強力なミサイルにするというPAC-3MSEの導入という事業も、今後進められていきます。

中期防と致しましては、第5世代の戦闘機を5年間で28機整備するという計画にしています。そして輸送機の確実な整備ということも考えられています。F35戦闘機は、多国間で共同開発をされており、日本はこの開発には参加していませんでしたが、購入はできるということで、今チームに

入っています。先ほど申し上げましたが、F35は第5世代の戦闘機で、レーダーに映りにくく、さらにコックピットに統合的な情報、センサーからの情報を受けて、パイロットの作戦を支援することができます。C2は5年間で10機整備する予定です。この輸送機は川崎重工が今一生懸命作っていますが、海外で活躍しているC130という米国製の輸送機に比べると、貨物室の容量が約2倍、約1.5倍の距離を航行できるという大変優れた輸送機です。ゆくゆくはこのような航空機を、これは武器ではありませんので、諸外国に売っていただければ良いとも考えています。沢山買って頂ければ、整備拠点もでき、我々の運用もしやすくなりますし、単価が安くなるということで、こうしたことも国家戦略の一つとして考えています。

以上で、私からの説明は終わりになりますが、3.11の時に盛んに言われていたのは「想定外」という言葉です。福島原発においても、過去色々な問題を指摘されながら、対応できていなかった部分があったかもしれません。しかし我が国の安全保障には想定外があってははいけません。我々がよく言っているのは、「Think unthinkable thing(考えられないことを考える)」、「Never say never(決して起こらないとは言わない)」ということですが、これは安全保障を担当する者のキーワードだと思います。これを真剣に考えながら、想定外を作らないように色々な計画を整備し、訓練をし、対応して行きたいと思います。「100年兵を養うのはただ1日のため」という言葉もありますが、まさに軍とはそういったものだと思います。我々航空自衛隊には、「Key to Defense, Ready Anytime」というキャッチフレーズがありますが、航空防衛力が他の職種に対して公共財としての役割を果たせるように、そして機動力、スピードを生かしながら即座に対応できるように危機に強い航空自衛隊を作り、国民の負託に応えていきたいと思っています。今後とも皆様のご支援、ご協力をお願い致します。

)
)
)



ニコニコボックス



東喜代雄様（新狭山RC）

本日は、地区青少年交換委員会として、お世話になります。よろしくお願い致します。

有山幸雄様(入会予定者)

古谷パスト会長のお話を楽しみにしております。

栗原(憲)君 航空自衛隊入間基地中部航空方面隊副指令空将補鶴田真一様、ようこそお出で下さいました。卓話よろしくお願い致します。

宮野君 航空自衛隊入間基地中部航空方面隊副指令空将補鶴田真一様、ようこそお出で頂きました。卓話を楽しみにしております。

古谷君 前回欠席しました。

稲見君 中部航空方面隊副指令鶴田真一様、ようこそお出で頂きました。今日のお話楽しみにしています。

沼崎君 航空自衛隊の司令官、新狭山RCの東さん、オーストラリアのジョンさん、ようこそいらっしゃいました。

吉松君 航空自衛隊入間基地中部航空方面隊副指令空将補鶴田真一様、本日は公務お忙しい中、卓話をお引き受け頂きましてありがとうございます。よろしくお願い致します。

次の例会

4月8日(火) 例会臨時変更

親睦ゴルフ大会 8時36分スタート（於）武蔵OGMゴルフクラブ

お花見夜間例会 6時40分 （於）和膳「蜻蛉亭」